

ティーチング・ステートメント

所 属 診療放射線学科
名 前 松村 俊也
作 成 日 2023.03.13

【責任】

診療放射線学科にて診療放射線技師を目指す学生に対して、全人教育を基本とし、大学の理念である「時代の要請に即したプロフェッショナル教育」に則り放射線技術学の専門的な知識や技術のみならず、臨床において活躍できる医療人になるための教育活動を行っている。教育内容として、診療放射線技師として奉職以来臨床に携わってきた経験をもとに、医療における安全管理を中心に各種検査機器の原理や撮影法、接遇・救命対応など基礎から応用、臨床実習、研究支援、臨床実習施設・就職先の開拓、関連団体等とのパイプを活かした卒業教育に携わっている。

【理念】

学生にはなぜ診療放射線技師を目指すか、その目標達成のため何が必要で、それを得るためにはどの様に行動したらいいかを問い考えさせ、医療人としての診療放射線技師のための知識や知見を享受していく。

診療放射線技師として行動するための基本は、医療機関においては複数の立場の職種がお互いを尊重し合い協力して業務を行い、医療従事者の都合より患者の問題解決を最優先に考え、意思決定では患者の意見が尊重される医療を行えるよう、患者の話に傾聴し、患者の立場で物事を考えられる思いやりをもった医療人としての診療放射線技師を臨床経験を中心に伝えている。

それと共に、学生の卒業教育も考慮して、患者の利益となる放射線被ばく低減や撮影時間短縮を可能とする最新の医療機器や診療情報等を学生と共有できるよう絶えず自分自身をブラッシュアップしていくため、関連団体等との関係を強めていく。

【方針・方法】

理念を達成するためには診療放射線技師になるための「国家試験対策」を行い、医療人として人間形成のため「他者意見の尊重」を基本としたグループワークを行っている。また患者の利益となる医療機器等最新情報を絶えず取得し「ブラッシュアップ」を図る。また「相談しやすい環境を構築」するために研究室のドアを開放し、研究や就職含め国家試験合格後のスキルアップ等キャリアプラン形成の指針を明示し相談に乗る

「国家試験対策」

授業にて教科書、参考書以外にオリジナルの資料、過去問を用いて正解よりなぜ間違っているか考えさせ、その後説明を行い、撮影法等においては根拠を実技を交え学生本人に経験させる

知識の固着・確認

1. 小テストの実施（毎回または各单元ごと）
2. オリジナル資料配布（要点を伏せて事前学習）
3. 実験においては事前レポート

4. 授業初めに前回の要点ポイント説明

「他者意見の尊重」

まずは、自己の意見は伏せ、他者の意見に傾聴する。そのうえで他者の意見を否定することなく「こういう意見はどうですか」と提案する癖をつけさせ、診療放射線技師として必須となる「検査の説明と同意」を得られるスキルを取得するために、他者の意見を尊重する姿勢を学べる授業を行う

1. 他者意見の傾聴
2. 自己意見の発表
3. ファシリテート能力の向上
4. 意見のすり合わせ

「ブラッシュアップ」

患者の不安要素である放射線被ばく関連の情報含め最新情報に注視し、自分自身のブラッシュアップを図りつつ学生に情報提供する。その手段として、職能団体や企業主催の勉強会、研修会への学生の積極的な参加を促す。

1. 積極的な情報収集活動
2. 関連団体等へのアプローチ

「相談しやすい環境の構築」

授業での不明点や日常の相談事など気軽に質問・相談できる環境を作る

1. 研究室のドア開放
2. 研究・就職等キャリアプランの質問、相談しやすい環境

【成果・評価】

成果

- ・ 国家試験合格率 98 %
- ・ 就職率 100 %

評価

- ・ 授業アンケートの結果、授業資料見やすいとの評価
- ・ 授業前の小テストと解答解説により授業での重要点が理解できたとの回答

【目標】

短期目標（今年度目標） 働く環境の開拓

テーマ：屋外に飛び出す診療放射線技師

現在の診療放射線技師としての活動状況として、検診事業を除けばほぼ、医療機関つまり屋内にて行われている。今後の社会情勢、就職状況等の変化により、今後診療放射線技師の飽和が現実視されている。そこで新たな働く環境の開拓が必要となる。

以下について調査、研究を行う。

1. 訪問看護

2. 介護施設
3. 動物病院

長期目標

1. 部門管理者としての管理運営
予算が与えられ、部門管理者として管理運営が出来るスキルを持った診療放射線技師の育成
2. 施設内外における診療放射線技師の評価
 - ・ 法定定数並びに診療報酬等での評価
 - ・ 医療人としての評価方法の確立